



2006年のトリノ冬季オリンピックは、欧州初の公認の「グリーンオリンピックゲーム」であった。2006年のFIFAワールドカップも、具体的に環境保護目標水準を設定したワールドカップ史上初のグリーンイベントである。今後の世界スポーツイベントでは、環境保護のための対処が必須に―。

ワールドカップのような世界規模のイベントが、少なからず環境に悪影響を与えてしまうのは避けられない事実である。今年ドイツで開催されるワールドカップでは、環境へのインパクトを最小限に抑え、環境への配慮が同時に経済的にも両立可能なことを世界に示すために、Green Goal™ というイニシアチブが運営委員会によって導入された。

これは、ワールドカップ期間中、そしてその後も引き続いて、フットボールファンの中で環境保護に関する意識を高めるいい機会である。同時にこの Green Goal™ イニシアチブは、EURO 2008™ や南アフリカで開催される 2010 FIFA World Cup™ などの将来の国際的スポーツイベントでも、環境保護のための対処がなされるよう世界標準を提示する、非常に重要なアクションプランである。

今年のワールドカップには、ドイツ国内外から、約320万人以上のフットボールファンが集結すると予測されている。会場となる全てのスタジアムで実施される環境保護策は、社会的にも大きなインパクトを持つと考えられる。さらに、今年ドイツには来れない世界中の何百万ものフットボールファンが、FIFAワールドカップのオフィシャルサイト (www.FIFAworldcup.com) を訪問するたびに、Green Goal™ のイニシアチブにリーチするようになっている。同時に、このイニシアチブを支援する数々のPRも企画されている。

Green Goal™ のターゲット目標

- 1) リサイクル問題:
ワールドカップゲーム開催スタジアム内と周辺におけるごみ廃棄物を20%削減する。
- 2) 交通問題:
スタジアムへ来る人、スタジアムから帰る人の総数の50%は、公共交通機関を利用する。
- 3) エネルギー消費:
スタジアム内におけるエネルギー消費を20%を削減する。
- 4) 持続可能な水資源利用:
周辺の農地の水資源へのインパクトを和らげるために、スタジアム内での水の消費を20%削減する。



上記の目標達成のために様々なアクションプランが導入されている。スタジアムへの公共交通機関利用促進のために、チケット保持者に、ゲーム当日の交通費を全て無料にしている。また、有効な水資源利用のために、右図のような特別な灌漑装置で雨水を保存し、スタジアムのフィールドへの水まきに利用している。ベルリンでは平均、年間115日雨が降るため、この大量な雨水を有効利用する考えである。その他のイニシアチブやこの件に関する質問は以下のアドレスまで。

